

第3回柏原市総合計画審議会議事録要旨

日 時	令和2年10月13日(火) 午前10時から午前11時30分まで
場 所	柏原市立勤労者センター1階会議室 (K・Iホール)
出席者	(柏原市総合計画審議会委員) 新子委員、石川委員、石原委員、北井委員、阪本豊子委員、 阪本幸重委員、重森委員、芝野委員、新屋委員、田井中委員、 高山委員、田中委員、谷口委員、鶴田委員、寺田委員、中谷委員、 西川委員、畠山委員、松井委員、松尾委員、山口委員、山下委員 (50音順)
欠席者	久米委員、佐藤委員、辻野委員、早川委員、文能委員 (50音順)
事務局	市川政策推進部長、安田総合政策監、榎内企画調整課参事、 中嶋企画調整課課長補佐、松田企画調整課主務 (株)ぎょうせい 山野氏、井澤氏、齋藤氏
傍聴者	なし
会議次第	1 開会 2 第5次柏原市総合計画策定の進捗状況について 3 柏原市総合計画基本構想(検討案)について 4 「第5次柏原市総合計画 基本計画」フォーマット案について 5 その他 6 閉会

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
高山会長	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員交代について紹介 ・ 審議会成立を報告 ・ 資料確認 <p>2 第5次柏原市総合計画策定の進捗状況について</p> <p>それでは、おはようございます。議長を務めさせていただきます高山です。本日もよろしくお願ひします。</p> <p>早速ですが、次第に則して議案を進めていきたいと思ひます。</p> <p>まずは、2 第5次柏原市総合計画策定の進捗状況について、事務局より説明いただき、その後、質疑を取りたいと思ひます。</p> <p>では、よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>事務局の企画調整課榎内と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、議題にあります第5次柏原市総合計画策定の進捗状況について御説明させていただきます。</p> <p>まず、これまでの状況についてでございます。委員の皆様には昨年8月に第1回、12月に第2回の柏原市総合計画審議会にお集まりいただき、それまでに実施しました市民アンケートやワークショップ、基礎資料の分析結果などを基に、基本構想の検討案について御審議をいただくところまで進めさせていただいております。第2回審議会では、2030年まれの将来像に関する御意見が多く出たことから、審議会後も事務局へ意見をいただき、取りまとめるところまでを行っております。この後、当初の予定では、4月から5月頃に第3回審議会を開き、基本構想案についての検討を終え、その後は基本計画案について審議会に2、3回の審議をいただいた後、10月頃にパブリックコメント、そして、審議会としての方針をいただいた上で市議会に議案を上程し、3月までに完成するという予定をしておりました。</p> <p>しかし、2月から猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症により、多くの方が集まったの会議の開催が困難となりましたことから、審議会を一定期間見合わせることにしたことに加え、新型コロナウイルス感染症に関する業務による事務局の負担増加等もございまして、感染状況などを見極めつつ、今後の進め方について検討を行ってまいりました。現時点で新型コロナウイルス感染症の感染は収まっていないということですが、一方で爆発的な感染なども起きていないということから、可能な限り感染対策を行うことで、必要な会議などについては開催が可能と判断をさせていただき、今回の開催に至ったという状況でございます。</p>

	<p>それでは、今後のスケジュールについて説明をさせていただきます。</p> <p>この後に御審議いただきます基本構想検討案につきましては、本日の審議により内容が固まればと考えております。基本構想が固まりましたら、基本計画の作成に進ませさせていただきます。本日の基本計画フォーマット案に関する審議が終わりましたら、今月10月から来月11月頃にかけて、各課に分野ごとのフォーマット作成を依頼し、それらを取りまとめて基本計画案を作成いたします。この基本計画案につきまして、12月下旬から1月上旬の間に審議会を開催したいと思っております。その場で最初の御意見をいただく予定としております。その上で修正を行いました基本計画案について、さらに1月、2月頃に皆様に電子メールや郵送等による意見照会を複数回行わせていただき、それらの結果を反映した基本計画案について、3月上旬にパブリックコメントを実施したいと考えております。このパブリックコメント終了後には最終案を作成した上で、最終の審議会を開催させていただき、答申をいただきたいと考えております。この最終の審議会につきましては、委員の皆様をお願いしております任期がございますので、3月末までに開催したいと考えております。なお、答申いただきました第5次柏原市総合計画につきましては、来年の6月の市議会において、御審議いただくという予定を考えております。</p> <p>各委員会の皆様には短い時間での意見照会等で御面倒をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞ御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。</p> <p>説明は以上となります。</p>
高山会長	<p>ただいま事務局から、この間の経緯及び今後のスケジュールについて説明がありましたが、この点につきまして御意見、御質問等ございましたら、いかがでしょうか。</p> <p>(質問・意見なし)</p> <p>では、こういうスケジュールで進めるということによろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
高山会長 事務局	<p>3 柏原市総合計画基本構想(検討案)について</p> <p>それでは、第3議案、柏原市総合計画基本構想(検討案)について、事務局のほうより説明をいただきます。よろしくお祈いします。</p> <p>事務局の中嶋でございます。どうぞよろしくお祈いします。すみませんが、着座のまま御説明させていただきます。</p> <p>それでは、皆様に事前配布させていただきました資料1と2を基に基本構想の検討案について御説明をさせていただきます。</p>

<p>高山会長</p>	<p>(事務局 「第5次柏原市総合計画基本構想(検討案)」について説明)</p> <p>ありがとうございます。今、説明でありましたように、これまでの審議会の議論を踏まえ、メール等で得られた方の意見を含めて、事務局で検討していただいた案ということです。各意見等は参考資料として付いていますので、見ていただければよろしいかと思いますが、基本的には、この2つの案を事務局からこれまでの審議のまとめとして挙げていただきました。そこで、基本的にはこの2つをベースとしながら、修正という形で徐々にバージョンアップしていただければ良いと思いますので、皆様の質問、意見等がございましたら、また、私はこちらが良いやこちらが好きといったことで結構ですので、自由に御意見いただければと思います。御審議のほど、よろしく申し上げます。</p>
<p>重森副会長</p>	<p>よろしく申し上げます。関西福祉課科学大学の重森です。</p> <p>第1の2案、3案、その辺りで御意見をというところでありましたので、質問させていただきたいのですが、柏笑の笑うという字の間に点を入れるか星を入れるか入れないかというところですけども、今後、例えば柏笑の笑うという字を使ってPRする予定があるのか、もしくはTシャツなどを作るなどするのか、それによってこの星を入れたほうがいいのか、入れないのかといったことが決まりそうな感じがしますので、今後のこの笑うという字の使い方を教えていただければよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今いただきました柏笑の文字の使用ですが、もともと一昨年、柏原市政60周年のロゴを作った中に、この柏笑という言葉丸印のロゴで作っておりまして、こちらについては、一定の利用、例えば名刺などで、私たちの柏原市職員の名刺やイベントなどの際に使わせていただいております。それで、現状としては、ロゴとして出来上がっていますので、こちらを使っていくことは今後もさせていただこうと思っております。そして、このまちの将来像につきましては、今後いろいろな計画について、総合計画を引用する場合には出てくるのが考えられますので、その場合は、もし星印、点を入れた形で決まれば、それを使っていただくことを現時点では考えております。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。今のロゴの表記の仕方も含めて、ほかの方から御意見等がございましたらいただきたいと思います。</p>
<p>田中委員</p>	<p>近畿大学の田中と申します。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>前回の第2回は欠席させていただいて、その間に将来像ができて、とても分かりやすい、面白い将来像だと思いますが、第2案のほうの「住みたいまち、住み続けたいまち」について、委員の方々に伺いたいと思います。最近、柏原ではなく、農山漁村のほうの居住形態として、いろんなタイプがあって、永住、あるいは定住、半定住、2地域居住というようなものもあります。「住み続けたい」という言葉が人口増とかの</p>

<p>高山会長</p>	<p>ようなイメージがあるのですが、でもそのような農山漁村とは違って、柏原は都市部にも近く、自然もたくさんあるということで、いろいろなタイプの居住を目指すのか、定住もしくは永住を望むのかというところが、将来像にもつながってくることなので、どのような希望を抱えてお住まいになれるのかということについて、御意見があればお聞かせいただきたいと思います。定住志向が多いとか、永住志向が多いのであれば、住み続けたいという言葉は将来像の中に入れるべきですし、いやいや少し違って交流人口とか、定住だけにこだわらない2地域居住も含めて望むということであれば、住み続けるというよりも関わるということが重要ですので、どちらを望まれるのかということをお伺いしたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>いわゆる住み続けるということの内容といたしますか、もう少し言うと、住み続けたいという言葉を含めるといろいろな意味が出てくる。その辺のことも踏まえて、柏原市ではどう考えられているかということもありますし、ここにおられる皆さんが、どのようにその辺りをイメージされていたり、考えられているのかという点について御意見いただければありがたいので、よろしくお願いします。</p>
<p>松井委員</p>	<p>今現在の市のこれまでの考え方を簡単に申し上げますと、やはり少子化、高齢化、それから人口減少、大きく人口減少しているので、人口減少に歯止めをかけるという政策をイメージして、市の考え方としては、それが一番かと思います。当然、そのためには交流人口、やはり柏原市を知っていただくために交流人口を増やしていくという。そういうイベント関係、そういう施策も行っていくというのが今の現状と考えています。田中委員がおっしゃられたとおり、今後の10年、20年ぐらいになりますと、空き家もこれから増えていくでしょうし、半定住というような方を、大阪の中では自然に恵まれている、この立地を活かして組み入れていきたいという思いもあり、非常に悩ましい点だと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ただいま、松井委員から、市としての考え方について説明がありましたが、その他いかがでしょうか。基本的には人口増加という、人口減少を食い止めるという点がありますが、いきなり柏原に住むとはなりません。当然その前提として、多様な交流を進めていくという形になってくるのかと思います。</p>
<p>田中委員</p>	<p>今、お話を伺うと、少し見えてきたのが、柏原の特徴というのは自然が豊富で、都市部にも近いというすごく良い環境にあるので、それにつながって人口減少に歯止めをかけるということです。定住や永住を希望するということですが、この定住とか永住を目指すために交流人口や一緒に活動しながらお互いが知り合うような過程を、プロセスを作り、取り組みながら、つなげていくという発想ではないかという気が少しいたし</p>

<p>高山会長</p>	<p>ました。</p> <p>田中委員にお聞きしたいのですが、今のお考えからすると、例えば第1章の2案の方の文言等について、何か意見はございますか。</p>
<p>田中委員</p>	<p>いえ、少し住み続けたいという言葉に引っかかっただけです。よく持続可能性といったものが問われるのですが、持続可能性というところを含めて考えたときに、ライフスタイルの在り方というのはとても重要だと思います。柏原市のライフスタイル、皆様のライフスタイルについては、私が存じてないので、どのようなタイプがいらっしゃって、それが「住み続けたいまち」につながるのかどうなのかという部分を知りたかったので、今の発言になりました。それで、1案と2案どちらがいいかという、どちらもすごく素敵なものなので、自然も産業も歴史もというところが盛りだくさんで、すごく柏原の良さみたいなものが出ている。それに、笑うという言葉にかける、これも委員から出てきたので、とても重要だということで、私は総合計画の将来像の中に委員や市民の方々の声や、そこにお住まいの方の思いがいっぱい詰まっているのであれば、そちらが私はこれからの柏原のためにはいいのではないかということで、私がどちらかに決めるということは全くありません。皆さまの委員の気持ちに沿わせていただければと思います。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。例えば、柏笑のロゴの形とか、こちらの方がいいといったことも含めていただいて結構です。「モーニング娘。」の「。」があるのが重要だといった話もありましたから、ロゴの形も意外と大きな意味を持っておりますので、話題になるロゴになると良いかと思います。いかがでしょうか。細かい意見も含めて、多様な御意見をいただければと思います。</p>
<p>高山会長</p>	<p>私のほうからよろしいですか。</p> <p>これは表面上のことと、全体の文章の流れにもなりますが、案1のサブタイトルですけれども、「豊かな自然 伝統ある産業 歴史に学び」と「歴史に」のところだけ動詞なんですね。この後、「豊かな自然 伝統ある産業 歴史」の3つに対して、並列してともに学ぶ対象という意味も考えられますが、6ページ目については、「豊かな自然 伝統ある産業」で一旦段落が切れて、「歴史に学び みんな住みよい」という形で書かれていて、文章として成り立つような気がします。そこで一つ、「歴史に学び」のところはそのまま動詞として置くのがいいのか、名詞にするのがいいのか、一度御検討いただければというところでもあります。若干の語句の修正です。</p>
<p>高山会長</p>	<p>そのほか、何か全体的な御意見など、どうでしょうか。どちらの案が、好きとか嫌いなどを含めて言っていただければありがたいと思います。皆さんの文言としては、これまでを踏まえた形で、皆さんの言葉、考えというのをとおおむね取り入れられて出てきたという理解でよろしいでしょうか。特に追加の文言や、ここを削って欲しい、この表現はやめて欲</p>

事務局	<p>しいとかいったことも含めて、何かございませんか。</p> <p>それでは、2つの案がございますので、事務局のほうから1案、2案に対する考え方といいますか、その辺について、少し御説明いただけますか。</p> <p>はい。先ほど2案とも御説明をさせていただきましたが、まず1案について、こちらは「選ばれるまち柏原」という言葉を端的に言うことで、先ほど田中委員からもご意見をいただきましたが、住むという部分だけではなく、交流、集うなどの部分も含めて、少し広く捉える意味で主題を端的な言葉にさせていただいております。</p> <p>副題につきましては、すみません、てんこ盛りになっている感じは否めませんが、柏原市について、先ほど田中委員からも言うていただきましたとおり、自然が豊かであるということに加えて、第2回の審議会でやはり産業についてもいろいろな産業があると言うていただいたので、これも外せない。そして、今年、日本遺産に龍田古道・亀の瀬が認定されましたので、歴史、ここがすごく歴史上重要なまちや道があった場所であるということ。そのほかにも、寺、寺院等の跡など、すごく文化もある。これらをずっと育んできたものであるというところがあります。そして、「みんな住みよい」というのは、住みやすい、先ほど言うていただいた定住、永住という部分ですが、今後は、今のコロナ禍の中であり、少し山手に行けば、田舎の風景と言うと語弊があるかもしれませんが、そのようなところへの半定住ということも、確かに考えられると思っております。そういう意味での「住みよい」、で「笑顔の玉手箱」、これまあ委員の方からいただいた意見ではありますが、すごく言葉として分かりやすい言葉でしたので、ぜひとも採用したいと考えさせていただいております。「柏笑」は先ほど申し上げましたとおりで、笑顔でいられる柏原であって欲しいという願いも込めて、このような形にさせていただいております。</p> <p>1案は、今申し上げましたとおり、本当に広く捉えに行っているということで、御意見や御提案いただいたものをできるだけ入れさせていただいたものでございます。</p> <p>2案につきましては、先ほど松井委員からもお話いただきましたとおり、市としては人口減という部分のダメージが大きく、これから変えていけないといけない部分であります。歯止めをかけるという部分で、まちに魅力を持たせてどのようになれば良いかという、住んでもらうということが大事だとなるので、「住みたいまち 住み続けたいまち」と付けています。総合計画は、すでに住んでいる方、市民の方向けに作るものでありますので、このまま柏原に住んでいたいと言うてもらえるような部分を出したいということで、「住みたい」だけではなく、「住み続けたい」という言葉を入れさせていただいております。「選ばれるまち」というのは、先ほどの全体像として、1案と同じ形で入れております。「か</p>
-----	---

	<p>しわら」について、2案は平仮名になっていますが、このように書くと固有名詞としての土地の柏原という漢字が出てきますが、両方の意味を持たせたいと考えて、表面上は書いていませんが、読んだ方にそのように受け取っていただきたいという意味も含めて、平仮名で記載させていただきます。</p> <p>副題の「歴史と文化、自然と産業」については、いろいろな魅力を端的に単語で並べるといふ形にすることで、それらが全て融合して、共に成り立っているまちが柏原であることを表現して、2案にさせていただきます。</p> <p>事務局では、市の姿勢としましては「住みたい 住み続けたい」を強調したいところではありますが、1案の「選ばれるまち」というのが端的でいいと事務局の考えとしては思っております。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、事務局から基本的な考え、取りまとめのときの考え方について改めて説明いただきましたが、いかがでしょうか。どちらもなかなか捨てるものだとは思いますが、いかんせん1つしか使えませんので、どちらかを重点的により良いものに変えていくという形になるかと思えます。この1つが絶対だめだということや、この2つ、ちょっとこれは駄目だ、これでは、明らかに僕は柏原住まないよねといったことはありませんか。</p>
高山会長	<p>大丈夫ですか。</p> <p>この二つ以外のご希望がございませんか。よろしいですか。</p> <p>それでは、どちらかに絞らないといけませんので、もう少し御意見をいただきながら、少なくとも一つの方向性を、最終的な調整は事務局にお任せするとして、一定の方向性を見いだしたいと思っておりますので、もう少し御意見いただけますでしょうか。</p>
西川委員	<p>J Aの西川と申します。</p> <p>私は、検討案の2がいいと思いますが、「歴史と文化、自然と産業が共存するまち」と書かれた下の余白が非常にたくさんありますが、この総合計画は決まるとホームページなどに載せていかれると思えますし、その辺は重要な事項ですので、柏原の産業などについて、もう少し具体的にこの余白の部分に、例えば「自転車のまち」、あるいは「ぶどうのまち」などを、もう少しアレンジして文章に入れられればと思います。やはり、もっと魅力のあるところというか、対外的に外から見られたときに、柏原がどのようなまちか、ということに少しあれば良いのではないかなと少し思いました。そして、この1案の場合は、少し言葉遊びがあるようで、あまりそのようなものは、基本構想の中には入れないほうが良いのではないかと、自分の個人的な意見ではありますがけれども、そのように感じました。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。2案のほうが方</p>

重森副会長	<p>向性としては良いのではないかということになりましたけれども。 そのほかいかがですか。 よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>1案と2案、先ほど中身をご説明いただきましたが、基本的には、両方とも人口減少が向かう方向ということで考えてよろしいでしょうか。 事務局からです。</p>
重森副会長	<p>基本的に、人口減少という部分は、議論の中から避けて通れない部分であり、そこを見ていく部分は大きいということで、両方とも同じような形になっております。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。第2案が「住みたい 住み続けたい」ということであり、人口減少ということで先ほどはうかがいしましたが、でもよく見てみると、第1案の「選ばれるまち」自体が、定住や永住といったその辺りを模索しているような文言に見えますので、基本的なベクトルが一緒なのかと思って聞いておりました。 違いといえば、第2案のほうに文化が入っているということと、第1案に笑顔が入っているということで、この辺りが違うかと思いますが、第2案に文化が入っているというところについて教えていただければよろしいでしょうか。</p>
重森副会長	<p>案を検討した際のことですが、正直なところ、歴史だけということではなく、歴史と文化というセット的に考えた部分があります。1案につきましては、どうしても言葉の部分が長くなっていることから、副題も長くなっていますので、学びというところについて、文化的な部分も含まれるというような考えです。先ほど西川委員が申し上げられましたが、言葉遊びではありませんが、言葉のつながぎを考えて、文化を入れていないということです。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。 恐らく、これから結構タイトなスケジュールで検討されると思いますので、この文化が入るかどうかというのは、その辺が関係あるのかと思いながら聞いていました。ただ、イベント的にいろいろと計画があつて、楽しいイベントなどもあるようであれば、第1案の方が結構しっくりくるのかと思いながら聞いていました。ありがとうございます。</p>
中谷府議	<p>ありがとうございます。西川委員によりますと、もう少し言葉を入れるのではないでしょうが、もう少し具体的な柏原のイメージを与えるような補足文言などを、ロゴの下というか、説明の中に入れることでもう少しイメージが膨らむように、そのような工夫をしていただければと思います。 そのほかいかがでしょうか。どうぞ、お願いします。</p>
中谷府議	<p>府会議員の中谷でございます。お疲れさまでございます。 1案、2案に関しまして、確証を持ったのが1案の参考資料、メッセージ性という部分が言葉の中に入っているということです。先日、フジ</p>

<p>高山会長 中谷委員 高山会長 石原委員</p>	<p>テレビで、大阪で住みたい町、市というアンケート、「住む」というキーワードでアンケートを取られて、1番河内長野市、2番が柏原市となっていました。2番が柏原市なんです。人口減少では、河内長野市が1番大阪府内で人口減少が大きい。柏原で5番目ぐらいだったと思います。このような部分を考えて、先ほどの田中先生のお話ではありませんが、将来に向けてのメッセージという部分を考えると、他市から他県から見た場合の内面的な部分については、第2案にあるといった印象があります。第1案に関しては、ある程度メッセージ性という部分が生きてきているのではないかと思います。</p> <p>そして、今日は、大阪府からおいでいただいておりますので、石原さん、一度大阪府全体から見た柏原がどのように映っているか聞いてみたいので、指名をさせていただきたいと思います。</p> <p>議長よろしいですか。</p> <p>大丈夫です。</p> <p>はい、私はこれだけです。</p> <p>ありがとうございます。それでは、よろしくお願いします。</p> <p>大阪府の石原です。よろしくお願いします。</p> <p>今、大阪府でも、大阪府市で共同して成長戦略というものを作っております、今年改定の年に当たります。今、案を検討しているところです。その中で、今回の改訂の中で一番大きいものとしては、コロナによるいろいろな影響です。もちろん経済的な影響も及ぼしていますし、社会変容という生活スタイルの変化も生み出している状況です。その中で、例えばテレワークが非常に進むなどがあることから、今までの都市集中から、都市の周辺部も含めて、府内全域で発展させていきたいという思いがありまして、その中においては、柏原市は自然も豊かであり、住環境も非常に優れているというところで、ぜひ、にぎわいを作っていただきたい市だと考えております。</p> <p>その中で、先ほどから移住などの話が出ましたが、全く知らないところから取り込んでいくという視点も大事だと思いますが、例えば、一方では、大阪から東京への人口流出という話がございますし、一度柏原を離れてしまった方もいらっしゃると思います。そういう方が例えば子育ての世代になって、戻ってくるなどが、第一にハードルが低いというか、ゆかりもあって、戻ってきて柏原に住んでいただくということを、まずは優先して考えていくのが良いのではないかと、個人的には思っております。そういう意味では、この「選ばれるまち」という非常にいいキーワードがありますので、そのようなことも意識しながら、御意見を集約していただければと感じております。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、全体としても「選ばれるまち」というのが非常に重要なキーワードであり、計画の中で非常に意味を持つということは確認されたかと思</p>

います。両方「選ばれるまち」という言葉は入っていますが、1案の方はある種それがストレートに一つ言葉として「選ばれるまち」だけからできている形で、2案の方は先に言葉が2つ付くことで「選ばれるまち」をもう少し説明している形になっているかと思います。その辺で基本的な方向性を示すメッセージ性という点から踏まえて、どちらが市民の皆さんに「そうだよね」、柏原市外の方には「ちょっと考えようかな」といったことを提案できるインパクトが強い考え方かと、今のお話を聞いて思いました。先ほど西川委員からもありましたが、それについての説明というのは、また別途の方法があるのかという気がしないでもありませんが、スローガンですから、それを踏まえて皆さんの御意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

坂本豊子委員

民生委員の阪本です。

1案の「豊かな自然 伝統ある産業 歴史に学び」というところですが、この学ぶのは、歴史に学ぶということと学校の教育の学ぶという意味を示していると言われていますが、歴史に学ぶになると聞いたときに歴史だけかなと思ってしまいます。だからここに書いてあるように、もし変えられるのであれば、歴史と学ぶにしていなければいいかと思います。そうしなければ、教育が入っていないのかと思います。若いお母さんに聞いたことがあります、まず住む場所を選ぶ理由は何ですかと聞いたら、安心・安全が一番でした。その次が教育。教育というのは、市立の3年保育があるかどうかということだそうです。「私立」ではなくて「市立」を探したそうです。その次に選ぶ基準が住民税だそうです。それで、藤井寺にしようか柏原にしようかと決めたことがあるということでした。結局、その方は住民税を考えて藤井寺に行かれました。

それと若いお母さんが外から来るときに、この地域は、安心・安全は大丈夫、静かな町でいい町、緑もある。でも、教育はどうか分らないということです。都心から近いと言っても、これから少子化になっていく中で、余計に親は教育熱心になると思いますし、旦那さんであれば少々遠くても通ってもらえるので、子供の教育を一番に考えて、選ぶ理由がそれだとおっしゃられていました。大学もあり、便利のいいところなのに、全くPR度が少ないと感じています。市立の3年保育、今はこども園になってきていますが、そういったことも選ぶ目的になるということが分かりました。ですから、書くのであれば、「歴史と学ぶ」にしていれば、私たち一般の方々が見たときに、歴史もあり、「学ぶ」教育にも熱心なのかと感じ取っていただけるのかと思いました。お願いします。

高山会長

ありがとうございます。教育、例えば子育てという点でも入れるべきだという貴重な御意見であったかと思えます。

その他いかがでしょうか。

はい、よろしく申し上げます。

<p>田井中委員</p>	<p>田辺から来ております、田井中と申します。</p> <p>今、中谷委員も、石原委員もおっしゃっていましたが、今新しい政府になって、キーワードといいますが、自助・共助・公助あるいはデジタル庁といった、これら2つがキーになっています。そして、そのことが石原委員もおっしゃられていますテレワークといった感じで進んできています。この先ほどから議論されています「選ばれるまち柏原」や「豊かな自然」「みんな住みよい」、この7文字、「みんな住みよい」というのはどちらかと言うと流出の予防になっています。減少している、増やさないといけない。ほかの地域や市町村に分かるように、柏原がどういうところなのかということ発信しないといけないわけです。そういう意味で、時間取ってはいけませんが、たまたま昨日朝刊に掲載されていました、東京都の女子中学生がコロナの影響で地方に住む祖父母に会えない、でもスマホかあるいはタブレットだと思いますが、それで会えたということでした。これは本当にいいことだということです。しかし、母方の父母には高齢で電話しかできない。これは、自粛を呼びかけた事態もあることなので、何とかデジタルを使える社会を作りたいという女子中学生のコラムがありました。そういう意味で、デジタルはこれからどんどん進化すると思います。</p> <p>それから、10月1日でしたか、社協の会長が来ていらっしゃいましたが、社協の応援でボランティア支援のリーダーがテレワークでの集い。スマホがこれだけ進化して、そしてテレワークあるいはリモートトークもできるということをまずリーダーが知ったらどうかということで、リーダーの人が14、5人集まっておられたと思います。そこに僕が参加させてもらって、そこで驚きました。LINEという皆さん知っておられるものだけで、多くの人と一度にしゃべることができ、顔を見てしゃべることができる。これはすごい。私たちも、今はほとんどスマホに変わっています。そのモバイルを使って、何とかそのような柏原の良さを、柏原に住んでいる人は分かっている、あるいは住んだ人も分かっているけれど、しかし流出が多いから人口が減少しているということを知らせない。全力でユニークなことを発信されているところもあるけれども、やはり若い人が重要です。ぽつんと一軒家でも若い人が行き初めている。そういうことだから、発信をしていかないといけない。そのために、できたら「みんな住みよい」いうのは、私のつまらん要望ですけれど、「みんな住みよい」を「未来に発信する」だとか、「明日に発信する」「笑顔の玉手箱 柏笑」として、デジタルやそのようなことにつながる文言はどうかと思い、意見を述べさせていただきました。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。未来や将来を描こうというのであれば、今の見解を含めた文言を入れたらどうだろうかという御意見だと思います。</p> <p>どうでしょうか。今、議長としては悩ましくて、趨勢を読むのが非常に難しいですが、感じとしましては、「選ばれるまち柏原」という言葉を</p>

	<p>押すことで、おおむね賛意を得ているのかと感じています。</p> <p>問題はその下にどのようなことを入れるのか。あるいは何を発信していくのかというメッセージをどう組み立てるのかということが次の内容になってくるのかと思います。それについての議論をよろしいでしょうか。今、未来、学び、教育、子育て、これらを含めたものにしていきたいということです。それで、書く時の形態としては、それらをもう少し具体的に分かりやすく説明する補足を入れつつ、できれば一面全部がメッセージというような形でいいのかもしれない。そういうことも含めて議論していただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>どんどん意見を出していただいて、最後は事務局にまとめてもらうといいと思います。</p>
田中委員	<p>先ほど石原委員のおっしゃった、今のコロナ禍による影響やアフターコロナの生活スタイルの影響といったお話がテレワークも含めてあったと思いますが、私はコロナ禍で最も3つの「方」が変わっていくということを申し上げておまして、「住まい方」と「暮らし方」と「働き方」の3つの「方」が今後は変わっていくだろうと思っております。</p> <p>その中で、特に働き方についてですが、今テレワークが進んできたというお話や情報通信が充実しているというお話で、かなり変わってきたと思いますが、それに対して、伝統産業についても、ある程度若い人たちが継承できるような仕組みというのが、必要だと思っております。先ほど、委員が学びというのはとても大事だとおっしゃっておられて、歴史だけにかかるのではないとおっしゃっていたので、産業や自然に対しても学ぶ姿勢というのは必要であり、そのようなことが新しい産業を生み出すことや伝統産業を守っていくことにつながっていくので、具体的な産業として、ぶどうと自転車産業だけにこだわらず、本当に柏原を支えている産業を示す必要があると思います。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。アフターコロナで新しい生き方がいろいろ問われていますが、これからの時代の柏原市を検討するような中で、今、田中委員の御意見を聞いて、私が最初に言った「学び」だけ少しおかしいのではないかと言った部分について、改めて、自然に学び、産業に学び、そして歴史に学びということで、これも落ち着くのかという気がしました。</p>
畠山委員	<p>どうでしょうか。そのほか。</p> <p>柏原市労働組合協議会の畠山と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>先ほど田中委員がおっしゃった話などは、すごく感銘をいたしまして、私たち働く者の仲間としましては、柏原市に伝統のあるものが岡村製油であったり、早川繊維であったりありますので、そういったことも何か文言に入れて、形あるものが残るようになればいいかと思います。ただ一方で、昔ながらの部分がある半面、今はテレワークなどといったことが進んでいるのは事実です。そのような意味でいくと、都市からテレワ</p>

<p>高山会長</p> <p>山口委員</p>	<p>ークなどを使って、このようなところから働ける、テレワークで働けるといったこともあると思いますので、ふわっとしたような言い方になって申し訳ありませんが、このようなことも取り入れていただけるとありがたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございます。学びながら未来を志向しようという形でしょうか。イメージとしては。</p> <p>市議会の山口です。</p>
<p>高山会長</p>	<p>今、ずっとお話を聞いてきたことを踏襲せずに申し訳ありません。テイストを変えてお話をしたいのですが、先ほどJAの西川さんがおっしゃられていましたように、まず私もどちらかと言うと固いほうになってしまうかもしれませんが、2案のほうを活かしたいと思っていました。ここでいろんな方がおっしゃられていましたが、柏原のことを考えたときに、切っても切り離せない文化というものがあると思います。大和川で分断されて、柏原・堅下・国分地区という、全然違う中河内と南河内で分断されている部分を一つにまとめた、というこの市政の成り立ちの歴史もすごくあると思います。祭りの部分も違いますし、感覚というところも違う。でも、そこが一つになっている、融合しているというところ、逆にこれを魅力に出せたらいいと思っております。もっともっと川を挟んで交流が深まればいいという、私はそういう思いがあるので、さっき文化とおっしゃられたところが切っても切れない、柏原市は、そういう大きな課題であり、また魅力でありというところを、並行して活かしていけたらいいと思います。今、皆さんの話を聞いていると、煮詰まってきた、盛りだくさんになってしまうので、これが良いかどうか分かりませんが、一つの意見として申し上げておきます。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。文化という、非常にまちの個性という空間と共有という、なくてはならないものということですね。一つ、山口委員から出たことで、議論で加えていただきたいと思いましたが、メッセージとしては、ある程度1案では柔らかくなっています。柏原という表現をどうするかという問題も含めて柔らかい。それで、2案のほうは固く、書き方はそれで良いとして、それで固いのが良いか、柔らかいのが良いかを含めて、柏原というロゴについて、2案のほうは平仮名という形で表現してあります。両方のことを含めて平仮名という形ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうですね。事務局としましては、1案で、最初の主題に地名の「柏原」が出ておりますので、後ろで「笑う」を付けさせていただいております。2案につきましては、主題で「かしわら」を平仮名にさせていただいております。副題のほうには「柏原」の文字を入れておりませんので、平仮名という表現をさせていただいております。</p>
<p>高山会長</p>	<p>表現の仕方で書くこともできますので、視覚の示し方も含めて皆さんの御意見をもう少し聞かせていただければと思いますが、それ以外でも</p>

事務局	<p>全体のイメージを含めて、併せて御議論いただければと思います。 いかがでしょうか。</p> <p>ひとまず、ここでこの1案なりで大筋はこれで行こうということが合意されたとして、その後に全体でのメール等で、また意見の修正を求めていくことはできますか。</p> <p>スケジュールの関係で、基本計画の策定には取りかかりますが、大きな意味で今委員の皆様からいただいている意見は、一本筋は変わっていないと思いますので、今後、先ほど基本計画の後に行う方法として、お示ししました電子メールや郵送でのやり取りで意見集約をさせていただく、あるいは今回と同じような形で、今いただきました意見を私ども事務局で一定まとめたものをお示しさせていただいて、最終は文書で御議論いただいた意見を集約していくことは可能と思います。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。できるだけこの場で議論を詰めていきたいと思えます。何にかもが大事ですが、そもそもスローガンにどのようなイメージを持たせるかというのも大事な点だと思いますし、市民の方がどう受け止めるかとても大事なことです。その辺についてこのような方向性で描いているのがいいのか、内容もちろんです。表現も含めて御議論いただければと思います。お時間が経って申し訳ありませんが、もう少し御意見いただければと思いますので、よろしく願います。</p>
事務局	<p>会長、よろしいでしょうか。事務局から。</p> <p>皆様から御意見をいただきました点について、こちらでメモを取って、今出させていただいている意見、案について、2案については中身に関して文章を変えるという修正がそこまでなかったもので、1案について若干修正させていただいた案を、今、口頭でお伝えさせていただいてもよろしいでしょうか。</p>
高山会長 事務局	<p>はい。どうぞ。</p> <p>許可いただきました。今、文化という部分を入れるということと、それら全部に学ぶという言葉について言っていたおりました。そこで、「選ばれるまち柏原」という言葉は、会長からもおっしゃっていただきましたとおり、これは一つの主題という形で、副題のところ、少し長くはなってしまうますが、括弧書きで、「～」の後にかぎ括弧を入れて、「豊かな自然 伝統ある産業 歴史と文化」で括弧を閉じます。これで「に学び」とすると、文化が入るということ、先ほど会長がおっしゃっていただいた全部に係る「学び」になるかと思えます。そして、田井中委員からいただきました「みんな住みよい」、住むという部分については、先ほどの「選ばれる」という部分で、言葉としてまとめておきますので、将来に向かってという、前回の審議会の最初に「未来へ」という言葉を入れさせていただいていましたが、それに似たような形で、「未来へ向かう 笑顔の玉手箱 柏笑」という形にすると、将来に向けて作</p>

<p>高山会長</p>	<p>ったメッセージ性を出せるかと思います。</p> <p>事務局から、皆さんから御意見をいただいたことについて、今、考えたものです。熟慮して作ったものではありませんが、再提案させていただこうと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>一応、今仮案という形で、このような方向性で議論の流れをまとめられるのではないかとということですが、どうでしょうか。</p> <p>私は気になっていますが、「柏笑」という言葉をどう書くか、具体的に皆さんもどうでしょうか。市民の方はどうでしょうか。例えば、柏原市の注染の手ぬぐいなどについては、柏笑を使っていて、この言葉も一定使われるようになっていますが、市民の皆さんにとって、これはなじみやすくなるのか。先ほどおっしゃったとおり、やはり、まち全体のスローガンですから、真面目に、というか真摯に取り組むという視点を示すということもあり得ると思いましたので、その辺も意見に含めていただければと思います。</p>
<p>重森副会長</p>	<p>先ほど、即席でまとめていただいて、その内容で「未来へ向かう」という言葉が入って、先ほど議論をした内容が入りましたが、逆に「みんな住みよい」が消えてしまったと思いました。例えば、第2案がいいと思われる理由としては、恐らく住みたいという言葉や住み続けたいという言葉で、若干、人口減少の対策をしようとしているのが分かりやすいような言葉が入っているということで考えていました。そういうことで、この第1案に「みんな住みよい」が入っていると思っていましたが、そこが消えてしまうと逆にその部分が分かりにくくなると思いました。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。2案の良さを、要するに1案と2案のいいところを取ろうという形だと思いますが、2案の良さを1案の中にも含めながら、作っていかうという御意見だったと思います。</p>
<p>鶴田委員</p>	<p>どうも御苦労さまです。市会議員の鶴田です。</p> <p>先ほどからこの2案を示されて、どちらかの選択ということで、本当に難しかったのですけれども、今本当に事務局のほうからまとめていただいたことで、割とすんなり前へ進んでいるかなと感じておるところでございます。</p> <p>やはり、この第5次の計画ということで、柏原は歴史と文化のまちということで、今まで先人が築いてきた部分を、しっかりこの先、10年先につないでいかないといけない部分だと思っております。また、柏原の市章にしても意味がありますし、柏原という名前も本当に意味がある言葉ではないかと思っておるところでございます。キーワードで、笑うという部分が提案されていて、本当に素晴らしい言葉でもありますし、ただ、「かしわら」という平仮名にして、括弧書きにするなど、このような形も10年先にしっかりつないでいけるのではないかと、感じておるところでございます。</p> <p>あとは、この中身を皆さんでどう作り上げていくのかということが非</p>

	<p>常に大事でありますし、本当にこの選択で、私もむしろ2案のほうを支持していたのですけれども、今1案にいろいろ入れ込みながらまとめたので、そのような方向で進んでいけばいいのではないかと考えております。</p> <p>私もこの総合計画、3次、4次と関わらせていただいて、今回5次ということで、本当に委員さんも増えて、たくさんのいろんな所見も聞かせていただいて、本当にこれからの柏原の方向付けという中で、非常に未来に、将来にわたって大事な部分でありますので、いろいろなキーワードを織り込みながら、素晴らしいものを作り上げていけたら良いと思っております。</p> <p>ありがとうございます。1案、2案の両方のいいところを踏まえながら、1案をベースにしているのですが、そのいいところを踏まえながら、肉付けしていくという方向性で議論のほうは進めさせていただいているわけです。</p> <p>もう1つは、今、御意見のあった「柏笑」というのを、こういうロゴに示すのではなくて、このスローガンのほうですね、平仮名の「かしわら」とか、繰り返しになりますけども、その説明を丁寧にするという形で対応して、この笑うというメッセージ性を、その中に残せるようなものにしていけばどうかという御意見だったと思います。どうもありがとうございます。</p> <p>どうでしょう、今のことも踏まえて、事務局が出していただいたのは仮のまとめなので、若干修正の余地があるということでもありましたけども、おおむね皆さんの柏原の将来を考える上で、入れるべきキーワード、あるいは進むべき方向性といえますか、まちづくりの基本になる方向性もおおむね含まれているのではないかと御意見だったと思います。こういう方向性で進めて、今日の御意見を参考にさせていただきながら、事務局で今一度まとめていただいて、それをメール等で流していただいて、御意見いただくという形でよろしいでしょうか。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。1案、2案の両方のいいところを踏まえながら、1案をベースにしているのですが、そのいいところを踏まえながら、肉付けしていくという方向性で議論のほうは進めさせていただいているわけです。</p> <p>もう1つは、今、御意見のあった「柏笑」というのを、こういうロゴに示すのではなくて、このスローガンのほうですね、平仮名の「かしわら」とか、繰り返しになりますけども、その説明を丁寧にするという形で対応して、この笑うというメッセージ性を、その中に残せるようなものにしていけばどうかという御意見だったと思います。どうもありがとうございます。</p> <p>どうでしょう、今のことも踏まえて、事務局が出していただいたのは仮のまとめなので、若干修正の余地があるということでもありましたけども、おおむね皆さんの柏原の将来を考える上で、入れるべきキーワード、あるいは進むべき方向性といえますか、まちづくりの基本になる方向性もおおむね含まれているのではないかと御意見だったと思います。こういう方向性で進めて、今日の御意見を参考にさせていただきながら、事務局で今一度まとめていただいて、それをメール等で流していただいて、御意見いただくという形でよろしいでしょうか。</p>
田井中委員	<p>私が横道にそれてばかりで申し訳ないですが、今おっしゃったようにやはり「みんな住みよい」いうのは、私もなるほどと思います。ただ、この「笑顔」というのが「柏笑」と2つ重なりますよね。それから、玉手箱というのは、上の豊かな自然であり、伝統ある産業であり、歴史に学ぶ、この3つが玉手箱だと思います。お作りいただいて、問うていただいて申し訳ありませんけど、その笑顔の玉手箱の代わりが、「みんな住みよい」と、せつかく良い未来をうたっている「みんな住みよい 柏笑」柏原というのは、上の柏原は本当の柏原で、これは主に笑顔をここへ伝えてくれているから、それですごくいいのではないかとひらめきましたので、余計なことかも分かりませんが、御検討ください。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。ダブルミーニングするということですね。1つの言葉に多様な意味を持たせて、市民の方にイメージを膨らませても</p>

<p>寺田委員</p>	<p>らおうと、そういう御意見だったかなと思います。</p> <p>その他どうですか。ぜひ言っておきたいということがございましたら。寺田でございます。</p> <p>今、皆さんの御意見を聞かせていただいて、考えさせられることも結構ありました。この2案、いろいろ甲乙つけ難いところもあります。共通して、目につくところ、趣旨として一番大きなところは、やはり両方にある「選ばれるまち」というところです。前回、この総合計画の一番大きな目標は、どこの自治体においても、よく似ているということ指摘させていただいたのですが、これが2030年の将来のまちの柏原の将来構想ということからいうと、やはり「選ばれるまち」と考えていただくと夢が広がる。反対にこの2案の「住みたいまち 住み続けたいまち」、隣にいらっしゃる田中先生からの意見もございましたけれども、これはもう自治体共通の思いであって、どこも一緒に、将来構想とした場合、マイナスイメージを少し感じるなど。共通の大きな課題を指摘されているように思いました。市民の皆さんとしては、心を動かすものという意味からいくと、少し欠けているのかなと思いました。</p> <p>それと、先ほど阪本委員からもございましたけれど、この「学ぶ」という言葉が非常に大事です。これを捉えて、議長がおっしゃったのですが、事務局がまとめていただく前に、この豊かな自然に学ぶとおっしゃったと思いますが、伝統ある産業に学ぶ、歴史に学ぶ。この学ぶというのは非常に動的である。これからの将来像を表現していると受け取りました。そういう意味からいくと、この豊かな自然というのは、今まで残していただいた柏原の資産、または伝統ある産業も、そういう意味では先人が残していただいた資産であるかと思えます。これからの30年を想定したとき、この資産に学ぶという意味合いが非常に大きなキーワードになる。ですから、今議長もおっしゃっていただいた自然に学ぶと。そこで一つ「学ぶ」をつける。伝統ある産業に学ぶ、歴史に学ぶ、「学ぶ」を一つのキーワードになれば、一般の市民の方にも訴える力というのが非常に倍増するのではないかと少し感じました。また、御検討いただきたいと思えます。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。非常にご意見いただきましたメッセージ性ここはこういうところでちゃんと伝えているのではないかと、ということ深く考えていただけたのかと思えます。</p> <p>もう大分時間が過ぎました。</p>
<p>新屋委員</p>	<p>お世話になります。</p> <p>たくさんの方の御意見を聞きまして、私は、最初見て思ったのは1案のほうかと思っていました。なぜかといいますと、主題が短くてはつきりしているので、非常に分かりやすい。さっさと入ってくるなと思いました。ですけど、教育文化都市柏原の中の教育と文化という言葉がないのが少し残念だな、別途でいいのかという思いもありました、これを</p>

<p>高山会長</p>	<p>ミックスして上手くできないのか。それで、平仮名の「かしわら」にするのか、笑う文字を使うのかということですが、これから若い人が描く未来像には、笑の文字を活かすのがいいのではないかと思います。</p> <p>西川委員のこういう文字を使って問題がないのであれば、そちらの方がより若い人が見たときに目を引くということがあるのかと思いました。</p> <p>ありがとうございます。柏原のロゴにご意見いただきました。私自身、中点にしてしまうと何か切れてしまうような気がするので、星というのがいいのかどうかはまた別として、中点はないような気がします。本当に皆さんの御意見を聞いていると、意見を聞いているだけで楽しいですけども、いろいろと柏原市のことが分かり、まちづくりとか楽しいですが、いかんせん時間の制限がありますので、一定の方向性が見えたとして私としては判断させていただきまして、今の御意見を事務局のほうで再度まとめていただいて、また改めて皆さんにメール等で御意見いただくという形で進めさせていただきたいと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
<p>高山会長</p>	<p>4 「第5次柏原市総合計画 基本計画」フォーマット案について</p> <p>それでは、第4議題、「第5次柏原市総合計画 基本計画」フォーマット案について、事務局より御説明いただきます。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
<p>高山会長</p>	<p>(事務局 「第5次柏原市総合計画 基本計画」フォーマット案について説明)</p> <p>ありがとうございます。これは構想中の書く時の段階で、どのような構成で考えていくのかというお話だと思います。何がということではなくフォーマット、形式だけの問題ですけども、こういう方向性で案を作成していくということです。</p> <p>フォーマットについて何か御意見ございますか。こうしたほうが見やすいなどでも良いと思いますが。</p>
<p>山下委員</p>	<p>市議会の山下です。</p> <p>質問ですが、今回2030年までの基本構想ということで、目標値の設定が2025年、5年後のみの記載となっておりますが、30年、要はトータルでの記載はあえてしないということでもよろしいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>達成目標としましては、基本計画自体は考え方としまして、前期、後期に分けるという考え方しております。ただ、10年という長いスパン、基本構想は10年目標として持っていくますが、これだけ世の中がすごく大きく変化する中でもありますので、前回の第4次も同じような形として5年で分けていりましたが、これを踏襲したほうがいいのではな</p>

<p>高山会長 松井委員</p>	<p>いかということで、基本計画としては5年ということで目標を作らせていただいております。ですので、もちろん、基本構想の計画期間中に、前期を検討した上で後期の目標をもう一度整理する形になると考えております。</p> <p>よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。</p> <p>少し事務局に確認ですが、このフォーマットからみると数値化をして分かりやすくしていくと受け取りましたが、事業の中にはなかなか数値化が難しいのもあるとは思いますが。この辺の対応について、大筋としては数値化して分かりやすくするということがよろしいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうですね。数値目標というのは、客観的な数字ということで、見て分かるものになりますので、原則としては、数値目標を立てるということで考えております。もちろん、数字だけが目標というものではございませんので、その数値目標の設定が難しいものについては、今後、分野ごとに各課から基本計画が上がってきたものについて、事務局との話合いの中で、数値以外の目標設定のほうがいいだろうということであれば、あえて数値を絶対的なものとして出すわけではないと考えておりますので、ここは柔軟にしていけないとは考えております。ただ、数値目標というのは作りたいというか、作っていく必要があるとは考えておりますので、それが軸であることは変わりありません。</p>
<p>高山会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。</p> <p>今、時間も押していますので、一旦この辺りで切らせていただいて、フォーマットとして目標物が出てこない、なかなか議論しにくいところがあるかと思っておりますので、この辺りでこの話を終わらせていただきます。</p>
<p>高山会長 事務局</p>	<p>5 その他</p> <p>それでは、そのほか事務局のほうからありますか。</p> <p>特にスケジュール等以外はございませんので、そのまま続けていただいて結構です。</p>
<p>高山会長</p>	<p>はい。どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、これで今日の会議の次第は全て終了したことになります。本当に様々なご意見をいただきまして、楽しい会議ができたと喜んでおります。本当にありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局のほうにお返しします。よろしく申し上げます。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日は長時間に渡るご審議ありがとうございました。次回は12月下旬または1月上旬に基本計画案の審議を予定しております。後日日程等の御連絡をさせていただきますので、よろしく申し上げます。</p> <p>最後に、その他のところで申し上げ忘れていましたが、基本構想案に</p>

つきまして、会長からおっしゃっていただいていたので、この後にもう一度修正案を作らせていただいたものについて、メール、郵送で送らせていただき、御意見賜りたいと思いますので、御協力よろしく願います。

それでは、第3回柏原市総合計画審議会は閉会といたします。ありがとうございました。

6 閉会